



# 富大教職組ニュースNO.3

2023年11月22日  
富山大学教職員組合  
TEL 076-445-6023  
(FAX兼用)  
メール: toyama@tu-union.org

## 人事院勧告 なるべく人事院勧告に 沿って対応したいと 思っていて 財務と相談中 人件費 あげる 昇給ですね。

2023年10月13日、2018年から恒例となっている学長との懇談会を行いました（昨年は学長選があり行っていません）。

法人からは、齋藤学長、下敷領理事、小野寺総務部長、穴田人事課長、草島労務管理室課長が出席し、組合からは、大野副委員長、藤田副委員長、唐原書記長、吉井書記次長、武田執行委員が出席しました。

当日は、最初に学長から資料にもとづいて「Saito Vision 2023」の概要について説明がなされた後、学長と組合役員との間で意見交換がなされました。以下に、その懇談内容の抄録をお届けします。



### 1 少子化による対策、大学院を充実させ、留学生を増やしたい

組合：大学院生を確保するというのですが 入学時に大学院に行きたいと希望している学生はいますが大学院進学をあきらめる人が多くなっておりまして。特に 文系学部には顕著に現れています。その背景には経済的な問題があると考えております。私が大学院に進学した頃であれば親が学費を出してくれましたが、今は アルバイトに追われて研究どころではなく、さらに 大学院まで行って勉強をする必要はない。何より 卒業してその後の受け皿の少なさが、背景にあるのではないかと実感しております。ここまでの問題については どのようにお考えでしょうか。

学長：国は10兆円ファンドを立ち上げ、博士課程の経済的な支援を行っています。180~200万ほど毎年支給、研究費は20~50万ほど支給していただく2つのシステムの活用があります。

富大は2つの審査で30名ほどの枠とSDGsやDsなど文系と理系が知恵を出し合い解決することは文科省が高く評価しています。ただ文系に博士課程がなく文科省より「実績を作りなさい」と言われたので、融合分野へ進学した文系の方が理系の方に入るとか博士課程に行く実績が上げていただき文理融合した形で学問を深めていただきたい。そういう人材を企業は欲しがって

いますので卒業生を世界に送り出すことが極めて重要だと思っています。

**組合：**博士課程には国から支援制度があると、修士課程についても要求中であるという事が分かりました。文系の院生終了後の受け皿も変わりつつあるということ、特に、文理融合分野はこれから有効であるというお話だったと思います。



**組合：**情報の出し方だと思います。学生さんや企業さんへ「こういう学びの場があります。活かしてください」という大学から企業へ連携していくことが大事で、学生が学ぶ・活用する・そして活躍の場が広がる、という繋がりに大学が率先して情報を出し学生を送り出していく。そういうような繋がりを大学から情報を出していただきたいなと思っています。

**学長：**それは広報の問題だとは思いますが。学生さんと話をしたんですけど、富山大学は、例えば、データ系・情報系に力を入れているという事はあんまり知らなかったです。

また、今年文科省から、リテラシーにしても、中級レベルのDsのお墨付きをもらいましたが、そういう事も知られていません。国立大学の中でも10大学しか認められてなくて、企業にお願いし講師に来ていただいています。また今、考えているのは長期や半年くらいのインターンシップを単位化できないか、そうすると企業と学生さん両方学ぶことによって企業も欲しい人材になりますので、そういったことも考えています。

**組合：**奨学金の話もありましたけれど、お金で諦めると言う学生さんも相当いらっしゃるんです。実は組合員・未組合員の先生方からも声が上がっているので、そういうところをやはり情報を密に出していただきたいと思っています。



**学長：**学生さんにお話する必要があるかと思っています。3年生になったら就職活動に入りますので、2年生の間に考えていただき卒業して会社に就職するのか、もう少し勉強をしてそのうえで就職をするのか、と考える貫うような場を作りたいなと思っています。

**組合：**学部で個人面談の際にも大学院進学を進めていると言う話も聞きますし、就職説明会とともに進学の説明も行い、大企業の求人は大学院修士卒業がいいですよとか、大学院や修士卒業がいいですよとか新しい分野で増やしていく中では、企業と繋がりと云います

か キャリアサポートの繋がりが見えにくく、それが見えるような形でしていただきたい。地元企業と繋がっていて 求人がある 例えば 工学部ですと繋がっていて 学生さんなんか新しい分野ではそこが力になるんじゃないかなと思います。

**学長：**大学で教える内容と企業で実際に勉強する内容と違いますが、大学で基礎的なことを学ばないと企業さんでは全くわからないと思います。また 大学からは派遣する企業をできるだけ探して学生さんに紹介する。そのように進めていきたいと思っています。

これは誤解がないように 富山大学の教育のレベルを上げたいんです。そのために色々な形で大学院の中で勉強していただく 私の思いは卒業生にできるだけ活躍してほしいと思っています。

## 2 留学生の確保について

**組合：**大学院生の確保に関して留学生を中心にしたいということをおっしゃっていたと思いますが 今 中国からの留学生に頼りません。というのも 経済的にも豊かになりましたし、学生の目は完全に欧米を向いています。日本の大学に来たとしても 踏み台にされてよそへ行ってしまふ。そういう状況になりつつありますので、もし、安易に考えておられるのであれば、それはまずいかなと思います。これに関してはいかがでしょう

**学長：**留学生で中国の次に多いのがインドネシア などでインドネシアの3つの大学を回りますし、1年生が海外研修でお世話になったマレーシアの大学も行きます。また、チェコの駐日大使の方が来られて、チェコの大学と包括連携協定を結んでほしいと言われました。チェコの科学アカデミーと協定をします。そういった形で多くの国から優秀な人に来ていただくような取り組みというのが必要になってきます。

1つは、英語で教育ができるシステムにしておかないと留学生が困ります。先日 ドイツの学会に行ったのですが、ポストドクの方がいっぱいおられて学会の講演終了後、自分の留学先を直談判したのですが、今回ほとんどが ヨーロッパ系の方でした。後で聞いてみたらビザが降りないそうです。アメリカ 中国からのビザがおりないので、そういった面で今までアメリカへ行っていたけれども 優秀な方に日本のことをもう一度見直していただく良い時期なのかもしれません。ただ 海外へ行くためには富山大学の教育レベルを上げるとか、大学教育を充実したものにしなければいけないと思っています。是非 富山大学でこういうことを勉強したいんだという事を海外の方に伝えられるような形でホームページ、もしくは、学生さんに充実してきっちりと本学のメリットや利点を PR していく必要があると思っています。

**組合：**今、米中対立の関係で中国からアメリカに行くなどという事情もあると思いますが、ちょっとした事情で学生の状況が変わってしまいますので 多くの国から集めたいということに主旨には賛同いたします。

**組合：** 富山大学に来て 何を学べて何を手にして、本国に持って帰れるのか、又は日本で就職ができるかというところを聞かれます。やはり 富山大学がこういう特徴があつてこういうことができるからというところを視覚的に捉えて、情報を流していただくことがとても求められているんじゃないかなと現場にいて感じているところです。

**学長：** 今 これから私も海外に行くのでちょっとしたショートビデオというか ビデオメッセージを作ってくださいってことをお願いしてあります それから 資料は作っており



ますので それらを刷新する、もしくは情報を送るとかそういう形で選んでいただけるような大学にしたいなと思っています。

### 3 研究推進について

**組合：** 高度人材の育成、それからDs教育を充実しているという事もお聞きしたいと思いますが、Dsを推薦していく分野ですと、人材の取り合いになるのではないかと懸念が起こるのではないかと 懸念しています。デジタルの重要性はありますけれども やはり 特定分野にかかりすぎているというリスクが大きくなるのではないかと懸念がございますが この件ではいかがでしょうか

**学長：** 日本が取り組むべき喫緊の課題ですね。OECD加盟国の中で日本は情報系の人材が下から5番目ぐらいです。すごい低いんです。今回、国が約3000億円のお金を出して、高度情報人材の確保や情報系の学部を作るということも 合意しました。

富山県立大学さんも情報学部で15億円ぐらい支給される予定です。

富山大学はすでに 9億1000万ですが、これは富山大学が最高額なんです。一番高く評価され期待されます。高度情報人材の9割が東京にいます。富山大学の情報系の大学院を卒業した方は、飛ぶように就職するんですが、ほとんど東京です。でも、これではいけないということで、できるだけ 富山 もしくは北陸の中での就職を進めていきたいなと思っています。

仕組みがはっきりしてるのがDs人材、それからグリー

ン人材です。これはカーボンニュートラルとかで自由が効きますので、グリーン人材という形で、力を入れてますので、両方の分野で人を育てることをすれば留学生たちにとってもメリットになると。世界中で求められている人材ですからお国に帰られても非常に活躍していただけたらと思います。それから 富山の経済同友会からお願いされてるのが 留学生さんに日常の日本語を教えていただきたい。彼らを富山の企業で雇用したいと思っていますので簡単な日本語ができれば 留学生も日本人も学生も地元で働けるような準備を進めていきたいなと思っています



**組合：** 日本語ができる留学生という話がありましたけれども、留学生に関する実感からまいりますと、日常会話には上手な人は多いと思っています。一応、日常的な会話はできるけれども 専門的な会話は難しい という問題があるというのが 私の印象です。

### 4 大学の運営について

**組合：** 運営費交付金の削減も関連しますが、厳しい現状は認識してるところですし 教員数減少のためにいろいろな方策を検討されていることも分かりますが、若手教員の比率の低さ、そのために 再任不可のポストが増えてきていて、かなり不安定になっている。悪循環になっている可能性もあるのではないかと懸念しております。その点の問題はいかがでしょうか

**学長：** なぜ少なくなったのか、10% 教員のポイントが無くなったんですね。教授がリタイアされたとしてもその補充が若い人で補填できなくなった。それが効いています。シニア層、それから中間層、若手が1対1対1ぐらいは理想です。そうするとうまく循環してきます。若手の教員率で25% 掲げていますけれども、富山大学だけが特別高いというわけではなくて、同規模の大学、文科省の方から若手教員数を25%くらいまでに高めてほしいと言われてます。



それから、任期制で再任不可になったのは、以前薬学部にいらっしゃった教授1名だけです。理由もなしに再任されないとかは無くて、例えば 病気をされたとか 業績がないとか情状酌量はありますが任期制があるから再任不可ということはないですし、少なくとも五福では再任不可は任期付きでいろんな形でやった方で任期を満了した方はいらっしゃいますけれど、それで全く再任不可というとは、教員ではないと思っていますのでその点はやはり 神経質にならないでいただきたいと思っています。

あと私からお願いしたいのは、若手教員を増やすことになっていきますので、中堅、もしくはシニアの方がきっちりと若手の方の指導をお願いしたいと思っています 特に理系は教授、准教授、助教とう枠組みがあり、上の方から指導ができるんですけれど、文系の場合は割と個人ですよ。できるだけ近い方が集まって皆さんで教育を研究をされて議論されてそういう形でアットホームな雰囲気を出していただきたいなと思います

## 5. リカレント教育について

**組合：** 齋藤学長 2023の中に、リカレント教育の質向上がございました。社会人で学びなおしたいという方を受け入れよう。わかるんですけれども、大学との競争などもありますし、そのへんはいかがでしょうか。



**学長** 工学部関係ではすでにリカ

レント教育をやっています。私が増やしたいのは文系です。就職された後、色々なことをまた学びたいという方が沢山いらっしゃるはずなんですけどもなんとなく今までの状況だと入学しにくいんですね。

例えば オンデマンド教育を充実しています。だから平日はそれでやっていただいて、月に2回くらいは夜に開放しますから 夜に来てくださいとそういう風にしなないと厳しいと思います。やはり 社会人のための構想を作るべきだなと思っています 今のところは、お願いしている状況です。

富山大学で土日開放している社会人向けの講座があるかと言ったらないんですね。もう少し考えてあげないと社会人になってから資格を取ったりとか、もっと勉強したいなというのは取れない状況なんで、そこを 工学部関係は修士出てる方が多いんですけれどやはり上のポジションにつこうと思ったら博士課程。そういう時は社会人で週末に来ていただいて実験していただく。そういうことを解放していただく。例えば 薬剤師の方もやはり病院のトップになろうと思うと博士号がいるんです。社会に出てからいろんな形で臨床薬学の分野でもいろんな形で学論が書けますので、指導していただくことが やはり重要かなと思っています そうすることで 富山大学は何かの力になってあげることができたら地元企業にとっても 公的機関から大事にされる存在になると思うので、そのあたりを強化したいなと思っています。

**組合：** リカレント生涯学習専門なものですから、その件で費用と時間と学習機会をどう提供するのか こ

れがリカレント教育の壁と言われているんですね。そこを解決しなければ、社会人のリカレント教育は推進しないし、どうサポートしていくのかということで、ぜひぜひ将来的に仕組みを作っていかなければ、人文系は。工学部系はどんどん学位に届きますけれど、社会科学系の分野は伸びないのではないかと、特に日本の場合は先進国より低いんですね。ですから、そこをどう色を出していくのかというところですね。そこを 新しい考えで 行かなければ難しいんじゃないかなと思います。

**学長：** とにかく意志改革が必要だと思うんです。私、学長になった時、2年半ぐらい前に、一番最初に国大協へ行ったときに、当時は林文部科学大臣、そのあと外務大臣になりましたね。 はっきり言われました「リカレント教育をしてください。これはシニアエイジを対象にしてるのではありません。社会に出ていわゆる 30代40代の方の比較的若い方のリカレント教育を対象にしています。これを大学で進めるようにしてください」ということははっきり言われました。

それは藤田先生が言われましたように、欧米に比べてリカレント教育をして、修士とか博士を持っている人が非常に少ない。ですからそういう社会を変えていきたい。と言われました。それから、どんどん新しいことが次から次と出てくるので、今まで大学を卒業すると、その時の学力で定年まで持ったんだけど、持たなくなってきた。10代20代でどんどん社会が大きく変わる。そのたびごとに学びなおしが必要だから、そんなことを考えて大学で社会人を教育するようなシステムを変えてくださいと言われたので、これは富山大学も変えないといけないと思いました

**組合：** 最後に学長へのお願いですが、この数年間、学長は団体交渉に出席されておられません。組合は現場の声を伝える場でもありますし、今日の懇談会のように直接、お伝えしたほうが人間的に通じ合える話題も出てくると思われま。それは学長ガバナンスに進むのではないかと思いますと考えております。今度、団体交渉の機会がありますので、是非、ご出席のご検討をお願いいただけるよう最後にお願ひ申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

